

## 有識者懇談会、部会における委員意見とその対応

- 第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議・・・・・・・・・・ 1
- 第2回 琉球文化継承・振興検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 第2回 新・首里杜構想検討部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

委員意見とその対応(第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議 R2.9.14)

No.	委員氏名等	ご意見等の概要	対応(処理)方針等	担当部局
1	玉那覇委員	◆ 復元の状況を含め、公開(見学)する箇所を増やして行く必要がある。	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策1 正殿等の早期復元と復元過程の公開】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(3)復元過程の公開による観光資源等としての活用</p> <p>① 正殿の復元過程を観る、学ぶ、楽しむ</p> <p>火災直後の復旧において、国は県教育庁と連携して、世界遺産として登録されている正殿遺構を速やかに保全し、仮設施設の整備による観覧及び大龍柱の補修状況の公開など、「今しか見られない姿」が現れている。</p> <p>県においても、国と連携して火災残存物の利用や大画面映像設備による復元過程の展示、漆喰シーサーづくりイベント、プロジェクションマッピングやデジタルサイネージ等に取り組み、観光資源としての活用を図る。</p> <p>また、木挽式、正殿建築起工式など、復元の段階における重要行事の機会を捉え、国、市町村や関係団体等と連携して、県民や観光客が首里城復元過程に参画できる復元・復興関連イベントを戦略的・一体的に企画・実施することで、「今だからこそ」できる体験を通じて、琉球王国時代から今に至るつながりを感じ、新たな未来へ思いを馳せる場になるよう取り組み、歴史・文化及び観光資源としての首里城の魅力を高めていく。</p>	土木建築部

委員意見とその対応(第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議 R2.9.14)

No.	委員氏名等	ご意見等の概要	対応(処理)方針等	担当部局
2	上原委員	<p>◆首里周辺の埋蔵文化財の調査が進み、内容が明らかになりつつあることから、今後は、これらを公開し、活用すべきである。</p> <p>◆首里城以外にも首里の歴史を語る資産はたくさんある。</p>	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策4 文化財等の保全、修元、収集】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知</p> <p>② 周辺文化財の情報発信</p> <p>首里城及び周辺の文化財について、これまでの発掘調査の成果を公開するとともに、現地説明会や出土品の企画展示展、講演会を開催する。また、公開にあたっては多言語化を含めAR・VR等先端デジタル技術を活用し分かりやすさに工夫を凝らすとともに、世界に向けて情報発信等に取り組む。</p>	教育庁
3	平良委員	<p>◆伝統工芸は範囲が広く、王朝時代の技術継承は、職人の育成がポイント。</p> <p>◆県外に保管されている伝統工芸品を職人が直に見て、触れる機会が技術継承につながる。</p> <p>◆県外に流出した工芸品のリストアップが重要。</p>	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策4 文化財等の保全、修元、収集】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(2)文化財等の復元、修復及び収集</p> <p>② 琉球王国時代の文化財等の調査研究、資料収集</p> <p>国内外に所在する琉球王国時代の文化財等について、これまでの調査結果に加え、引き続き所在調査を進め、その情報を整理・研究し先端デジタル技術を活用して広く公開していく。また、これら文化財等の研究報告会、展覧会等の実施や県内において修復等を行うなど、貴重な文化遺産を守り、次世代に継承する取り組みを進める。</p>	文化観光スポーツ部 教育庁

委員意見とその対応(第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議 R2.9.14)

No.	委員氏名等	ご意見等の概要	対応(処理)方針等	担当部局
4	玉那覇委員	◆伝統的な産業のアピールもしながら、復興の状態を県内外に発信する工夫が必要。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策7 歴史の継承と資産としての活用】 ●施策の方向性 (1) 多様で魅力ある観光資源の活用 ① 歴史や伝統産業などの観光資源化 首里地域に点在する歴史・文化遺産である石畳道・屋敷石垣、御嶽・井泉や地域に根ざした伝統産業等の発掘及び体験メニューの開発支援に取り組む。また国と連携して首里城公園と一体となった周遊ルートの提案等をしていく。	文化観光スポーツ部
5	安里委員	◆現状の首里城から周辺へ誘導する仕掛けが大切。		
6	佐久本委員	◆県外からは、首里城=沖縄と感じており、観光にも大きな影響を与えている。また、意外にも「壕」もよく見ており、このような視点を踏まえて、首里城を中心に散策して回れる仕掛け作りが重要。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策7 歴史の継承と資産としての活用】 ●施策の方向性 (2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信 ① 歴史的価値を継承するための環境整備 首里城及び首里城周辺に存在する戦跡について、適切に保存するとともに、首里城公園地下にある第32軍司令部壕については、新たに設置する専門家委員会において保存・活用方法を検討し、併せて、証言記録、調査資料等とAR等最新デジタル技術を活用した平和学習ツールの開発・提供等を行い、その歴史的価値の継承及び平和発信に取り組む。	子ども生活福祉部
7	上原委員	◆首里城そのものが戦跡であり、琉球の歴史・文化的な晴れの遺産もあれば、負の遺産もあることも踏まえ、首里城を中心に広がりのある空間と捉えて新・首里杜構想のイメージを作ることが大切。		

委員意見とその対応(第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議 R2.9.14)

No.	委員氏名等	ご意見等の概要	対応(処理)方針等	担当部局
8	安里委員	◆国・県営の首里城公園及び首里地区が、沖縄振興(まちづくり・産業・観光等)の資源として十二分に活用できる体制づくりが必要。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策3 首里城公園のさらなる魅力の向上】 ●施策の方向性 (1) 国営・県営区域の一体的利用 ① 首里城公園全体の魅力向上 正殿等の復元整備にあわせて、県、国、指定管理者の連携のもと、首里城公園全体の一体的な利用に向けた検討を行い、施設整備や利用動線、展示や案内機能の上など首里城の魅力を体感できるように取り組む。 ② 中城御殿の整備と展示・収蔵機能の拡充 首里城に関連する文化財等を展示・収蔵する機能も含め、県営公園区域にある中城御殿の復元を検討・整備することで、歴史的空間を体験できる場を創出する。	土木建築部
9	玉那覇委員	◆基本計画に琉球王朝時代の様々な施設等の復元について盛り込んで欲しい。	【基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】 ●施策の方向性 (2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備 ① 中城御殿や円覚寺などの歴史文化遺産の整備 首里城公園において琉球・沖縄の豊かな歴史文化を多面的に伝えるために、県営公園区域にある中城御殿、円覚寺跡や松崎馬場等の重要な歴史文化遺産を計画的に整備し、国営公園と一体となった歴史的空間を体験できる場を創出する。 ② 御茶屋御殿等の地域に点在する文化資源の段階的整備に向けた連携 御茶屋御殿等の段階的な整備については、事業主体や保存に係る調査等の課題解決に向け、那覇市、県、国が連携して取り組み、実現可能な方策の検討を進める。	
10	田名委員	◆国では、首里城城郭内に保管されていた重要文化財を城郭外で保管する議論がある。その受け皿を中城御殿が挙げられるが、県の専門員会設置・検討など国のスケジュールとリンクが必要。 ◆円覚寺や他の施設復元についても専門委員会の設置・検討が必要。		
11	池田委員	◆首里杜構想はやり残したことが多い。国・県・市が上手くつながったまちづくりが大切。まち並みを見ていくと歴史・文化を感じ、体感できる基盤整備が、歴史的まちづくりだ。		

委員意見とその対応(第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議 R2.9.14)

No.	委員氏名等	ご意見等の概要	対応(処理)方針等	担当部局
12	いのうえ委員	◆文化財の復元やまちづくり等は、期間や目標を設定しながら取り組んでいくことが重要。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】 ●施策の方向性 (1)歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 ①「新・首里杜構想」の策定と着実な取組 前回、平成の首里城復元にあたり、首里城を中心とする首里杜地区のまちづくりの基本的な考えを示した首里杜構想について、首里城の復元にとどまらない今般の首里城復興の理念を踏まえ、首里杜地区の新たなまちづくりの理念・方針及び目標期間を示し「新・首里杜構想」を策定する。 また、構想に基づき、新・首里杜構想の実現に必要な施策体系を明らかにする整備基本計画を策定する。整備基本計画は、「歴史的まちづくり(歴史を体現できる風格ある都市空間の創出)」「歴史文化資源の整備(首里城公園及び周辺地域の段階的整備)」「交通環境の整備」を柱として設定し、那覇市等との役割分担を踏まえ、具体的な事業手法の検討を行う。 ② 推進体制の構築・充実・強化 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出に向けては、長期かつ多岐にわたる課題を有することから、県、国、那覇市、有識者、大学等高等教育機関、関係団体や事業者、住民など多様な主体が必要に応じて参画できる体制を県等・構築し、情報の共有や課題の解決に継続して取り組むことで計画的な推進につなげていく。	土木建築部
13	越智委員	◆回遊性を高めると観光客が不規則に様々な場所に行くようになり、住民の生活への負荷も高まる。住民がどのような形で意思決定の場に参画し続けられるか、体制づくりが必要。		
14	いのうえ委員	◆基本計画や新・首里杜構想の実現には、那覇市のまちづくりが連動することが不可欠であり、体制づくりが必要。		

委員意見とその対応(第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議 R2.9.14)

No.	委員氏名等	ご意見等の概要	対応(処理)方針等	担当部局
15	神谷委員	<p>◆交通環境については、どういった姿を求めるのか、ビジョンはどうか、地域住民と観光客が共存できる形で描くことが大切。</p> <p>◆各種データを提示した上で議論を進めることが必要。</p> <p>◆道路の電柱も議論する必要がある。</p>	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(3)交通環境の整備</p> <p>① 安全で快適な歩行空間の整備等</p> <p>首里城に来園する観光客や地域住民の安全で快適な歩行空間の確保を図るため、無電柱化の推進、龍潭線の整備、歩行者中心の道路空間の創出、スージグワの整備、域内公共交通網の充実などについて、県、那覇市、住民、交通事業者等の連携体制を構築して取り組む。</p> <p>② 交通課題への対応</p> <p>首里地域における通過交通、観光交通、地域住民の交通による局所的に起こる渋滞等について、県、那覇市、地域住民、観光・交通事業者等が連携し、交通に関する定量的なデータの収集・分析、めざすべき交通環境の水準を定め、交通課題の解決に向け取り組んでいく。</p> <p>なお、中期的な対策として、交通事業者との連携によるピーク分散や首里杜館駐車場の運用改善、大型観光バス等の駐機場の確保、コミュニティバス等の導入、パークアンドライドの整備等に取り組む。さらに、通過交通を抑制するハシゴ道路のネットワークを形成する幹線道路である那覇インターアクセス道路の早期事業化等について検討する。</p>	土木建築部
16	いのうえ委員	<p>◆交通環境は、高齢化の進行や未来へつなぐ子どもたちへの視点から、地域に暮らす住民の福祉を踏まえる必要がある。</p>	<p>首里地域における通過交通、観光交通、地域住民の交通による局所的に起こる渋滞等について、県、那覇市、地域住民、観光・交通事業者等が連携し、交通に関する定量的なデータの収集・分析、めざすべき交通環境の水準を定め、交通課題の解決に向け取り組んでいく。</p> <p>なお、中期的な対策として、交通事業者との連携によるピーク分散や首里杜館駐車場の運用改善、大型観光バス等の駐機場の確保、コミュニティバス等の導入、パークアンドライドの整備等に取り組む。さらに、通過交通を抑制するハシゴ道路のネットワークを形成する幹線道路である那覇インターアクセス道路の早期事業化等について検討する。</p>	
17	田名委員	<p>◆交通環境の整備に当たっては、高齢者など様々な利用者への配慮やレンタカーや駐車場問題等の課題があるが、できるだけ理想を掲げてこれに近づけていくことが大切。</p>	<p>首里地域における通過交通、観光交通、地域住民の交通による局所的に起こる渋滞等について、県、那覇市、地域住民、観光・交通事業者等が連携し、交通に関する定量的なデータの収集・分析、めざすべき交通環境の水準を定め、交通課題の解決に向け取り組んでいく。</p> <p>なお、中期的な対策として、交通事業者との連携によるピーク分散や首里杜館駐車場の運用改善、大型観光バス等の駐機場の確保、コミュニティバス等の導入、パークアンドライドの整備等に取り組む。さらに、通過交通を抑制するハシゴ道路のネットワークを形成する幹線道路である那覇インターアクセス道路の早期事業化等について検討する。</p>	
18	池田委員	<p>◆新しい時代の交通環境を考えなければならない。基本は歩行だが、交通の拠点をどうするか、ネットワークする交通手段は何か。小スケールで新たなカタチの公共交通機関が必要。</p>	<p>首里地域における通過交通、観光交通、地域住民の交通による局所的に起こる渋滞等について、県、那覇市、地域住民、観光・交通事業者等が連携し、交通に関する定量的なデータの収集・分析、めざすべき交通環境の水準を定め、交通課題の解決に向け取り組んでいく。</p> <p>なお、中期的な対策として、交通事業者との連携によるピーク分散や首里杜館駐車場の運用改善、大型観光バス等の駐機場の確保、コミュニティバス等の導入、パークアンドライドの整備等に取り組む。さらに、通過交通を抑制するハシゴ道路のネットワークを形成する幹線道路である那覇インターアクセス道路の早期事業化等について検討する。</p>	

委員意見とその対応(第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議 R2.9.14)

No.	委員氏名等	ご意見等の概要	対応(処理)方針等	担当部局
19	池田委員	◆那覇市と協働した取組が必要であり、歴まち方など、様々な支援補助も含めた財源が必要。	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【復興基本計画の着実な推進】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(1) 国、那覇市等関係機関との連携等</p> <p>②復興財源の確保</p> <p>首里城復興基本計画を着実に推進していくため、新たな沖縄振興計画に首里城復興に関する取組を位置づけ、国と連携及び支援を得て取り組む。また、沖縄振興の枠組み以外の各種制度を積極的に活用し、効果的な復興基本計画の推進に努める。</p>	知事公室
20	波照間委員	◆文化財の修復に関しては、県立芸大への意見聴取や修復技術・保存に関する科学的な取組についても議論する必要がある。	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策5 伝統技術の活用と継承】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(2) 美術工芸における伝統技術の継承</p> <p>② 伝統技術に関する教育の推進</p> <p>県立芸術大学において、保存修復技術獲得に繋がる基礎技能の習得に向け、段階的な教育内容の充実を図る。また、現行教育にも資する内容で、保存科学分野の選択科目の開設を検討し、将来の文化財あるいは保存修復分野の学位取得にも繋がるようなカリキュラムを検討する。また、県内において文化財等の保存修復が可能となる環境の整備に取り組む。</p>	文化観光スポーツ部

委員意見とその対応(第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議 R2.9.14)

No.	委員氏名等	ご意見等の概要	対応(処理)方針等	担当部局
21	波照間委員	◆文化を首里城の復興とどう結びつけて考えていくのが課題。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。	文化観光スポーツ部 商工労働部
22	嘉数委員	◆宮廷芸能、古典芸能の発祥地は首里城であり、首里城復興は関係者が己を見つめ直すきっかけになる。芸能に携わる人のサポート体制の充実が必要。 ◆首里城を活用して芸能を発信する。これを始まりとして次のステップにつなげ、琉球文化ルネサンスを位置づけることが大切。	【基本施策8 琉球文化のルネサンス】 ●施策の方向性 (2) 琉球文化の復興と新たな文化の創出 ① 感動体験の機会を創出する拠点づくり 首里及びその周辺エリアにおいて、伝統芸能の鑑賞など、琉球文化を体感できる機会の創出を検討する。 また、首里城で演じられる舞台においては、往時を再現すべく、衣装、小道具に至るまでこだわりを持って取り組めるような環境作りに取り組み、演じられる芸能だけではなく、工芸品についても関心が高まるような取組を検討する。	
23	波照間委員	◆文化の振興は、縦割りで無く、各主体と連動しながら、伝統文化をどのように保護し、発展させるかという取組が必要。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策8 琉球文化のルネサンス】 ●施策の方向性 (4) 琉球文化を活用した産業振興 ① 文化資源を有効活用したビジネスモデルの創出や商品開発 多様性・独自性を持つ本県の文化資源を有効活用し、文化振興と産業振興の両面から相乗効果を生み出すよう、異分野・異業種間の連携を促進する仕組みを構築し、新たなビジネスモデルの創出や新商品開発を推進する。	

委員意見とその対応(第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会  
新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・振興検討部会 合同会議 R2.9.14)

No.	委員氏名等	ご意見等の概要	対応(処理)方針等	担当部局
24	鈴木委員	<p>◆文化(工芸)では収入が厳しく、技術を有していても業の継続が困難で、文化と経済のバランスをどう取るかがポイント。</p> <p>◆首里城は、工芸品の売上げが多くあった場所。</p> <p>◆文化を消費する経済でなく、文化を育むためにどうやって経済を回していくのかの仕組みが必要。</p>	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策8 琉球文化のルネサンス】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(4) 琉球文化を活用した産業振興</p> <p>① 文化資源を有効活用したビジネスモデルの創出や商品開発</p> <p>多様性・独自性を持つ本県の文化資源を有効活用し、文化振興と産業振興の両面から相乗効果を生み出すよう、異分野・異業種間の連携を促進する仕組みを構築し、新たなビジネスモデルの創出や新商品開発を推進する。</p> <p>② 「おきなわ工芸の杜」を拠点とした工芸産業の支援</p> <p>「おきなわ工芸の杜」において、商品開発やマーケティング、ブランド戦略の推進等に取り組み沖縄の伝統工芸の魅力や価値を高める。また、首里城や令和4年度に首里に開設予定の琉球びんがた・那覇伝統織物(首里織)両組合の体験・発信拠点(「古琉球」関連施設)との連携を図ることで、誘客や販売促進などの相乗効果を目指す。</p>	<p>商工労働部 文化観光スポーツ部</p>
25	石原委員	<p>◆首里城という歴史・文化的に深く、広がりを持った世界をどう見せていくのが課題。焼き物、芸能など単体で無く、構造的に捉えることで新しい価値が生まれてくるのではないか。</p>		

委員意見とその対応(第2回琉球文化継承・振興検討部会 R2.10.23)

1	平良委員	<p>◆今後、首里城ができるまでの間に博美などで琉球王朝に関するものについて年1回の開催や、県外の琉球の工芸品を保管している美術館等に依頼し、公開してもらってはどうか。琉球王国時代の素晴らしい伝統技術を各地で発信することにもなるし、それを見ることによって職人も意欲をかき立てられる。</p>	<p><u>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</u></p> <p>【基本施策4 文化財等の保全、復元、収集】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(2)文化財等の復元、修復及び収集</p> <p>② 琉球王国時代の文化財等の調査研究、資料収集</p> <p>国内外に所在する琉球王国時代の文化財等について、これまでの調査結果に加え、引き続き所在調査を進め、その情報を整理・研究し先端デジタル技術を活用して広く公開していく。また、これら文化財等の研究報告会、展覧会等の実施や県内において修復等を行うなど、貴重な文化遺産を守り、次世代に継承する取り組みを進める。</p> <p>【基本施策8 琉球文化のルネサンス】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(3)国内外へ向けた琉球文化の発信</p> <p>② 在外沖縄関連資料の展示公開の検討</p> <p>琉球の美術工芸品等を保有する国内外の美術館等での公開に取り組むとともに、琉球王国時代の文化財等を国内外に向けて発信する取組を行う。</p>	文化観光スポーツ部 教育庁
2	平良委員	<p>◆首里城が復元されるまでという視点で技術者の育成を考えた時には、新人を育てるというよりも、すでにいる従事者に特化していかないと継承は難しいのではないか。</p>	<p><u>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</u></p> <p>【基本施策5 伝統技術の活用と継承】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(2)美術工芸における伝統技術の継承</p> <p>③ 伝承者養成に向けた支援</p> <p>国または県の無形文化財に指定されている工芸技術を持つ各保存会等に対して、伝承者養成事業等を実施し、技の継承を図る仕組み作りを行うため、保持者の追加認定を適宜行い、技術の継承が適正に行われるよう取り組む。また、伝承者養成には、保持者と連携し、保存会の事務局運営を円滑に進め、会をマネジメントする事務局員の育成も必要不可欠であることから、その人材確保に向けた支援に取り組む。</p>	教育庁

委員意見とその対応(第2回琉球文化継承・振興検討部会 R2.10.23)

3	嘉数委員	<p>◆普及という面からは鑑賞機会を提供するのに加えて触れる、という位置づけも大事であり、教育の現場とも連携する必要がある。</p> <p>授業の中で組踊を鑑賞する、伝統工芸品に触れるなど、子どもたちが親しみをもてるような仕組みも必要。</p>	<p><u>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</u></p> <p>【基本施策7 歴史の継承と資産としての活用】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(3)次世代を担う子どもたちへの継承</p> <p>① 歴史・文化を観て、学び、体感できる環境の整備</p> <p>首里城の復元事業を文化財保護の啓発や歴史・文化の学習等を通じた人間形成の機会として捉え、地域、関係機関と学校教育が連携し、組踊の鑑賞機会や地域行事への参加、伝統工芸品に触れる機会の提供等を通して教育資源等に生かす取組を進める。</p>	<p>文化観光スポーツ部</p> <p>商工労働部</p> <p>教育庁</p>
4	嘉数委員	<p>◆伝統芸能を発信する環境は整ってきているが、全体的な課題として身につける物への配慮がまだ足りないと感じる。</p> <p>首里城では実物の染め織りを身につけて質の高い芸能を発信。このためには演じる側と工芸分野との連携が必要。</p>	<p><u>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</u></p> <p>【基本施策8 琉球文化のルネサンス】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(2)琉球文化の復興と新たな文化の創出</p> <p>① 感動体験の機会を創出する拠点づくり</p> <p>首里及びその周辺エリアにおいて、伝統芸能の鑑賞など、琉球文化を体感できる機会の創出を検討する。</p> <p>また、首里城で演じられる舞台においては、往時を再現すべく、衣装、小道具に至るまでこだわりを持って取り組めるような環境作りに取り組み、演じられる芸能だけでなく、工芸品についても関心が高まるような取組を検討する。</p>	<p>文化観光スポーツ部</p> <p>商工労働部</p>
5	鈴木委員	<p>◆琉球文化のルネサンスを考えると3つのポイントがある。</p> <p>1つはオープンにすること。文化の人たちはクローズのイメージがある。</p> <p>もう一つが「多様性」。工芸の中でもなかなか横のつながりがなかったりする。新しい文化を創造するにあたっては文化を担当している人だけでなく、IT業界など異業種と交流することも必要。</p> <p>3つめは継続性。他の産業と違い、文化に関しては時間がかかるため、長いスパンで物事を見て、方針と計画を出していく必要がある。</p>	<p><u>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</u></p> <p>【基本施策8 琉球文化のルネサンス】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(4)琉球文化を活用した産業振興</p> <p>① 文化資源を有効活用したビジネスモデルの創出や商品開発</p> <p>多様性・独自性を持つ本県の文化資源を有効活用し、文化振興と産業振興の両面から相乗効果を生み出すよう、異分野・異業種間の連携を促進する仕組みを構築し、新たなビジネスモデルの創出や新商品開発を推進する。</p>	<p>文化観光スポーツ部</p> <p>商工労働部</p>

委員意見とその対応(第2回「新・首里杜構想」検討部会 R2.10.28)

1	いのうえ委員	◆八景の大半が整備済みとはいえない理解。電線の整理や弁之御嶽再整備が必要。また、スカイライン保全では虎瀬山西側の整備をどう考えているのか。	次年度の整備基本計画策定時に再度整理する。	土木建築部
2	池田座長	◆これまでの首里杜構想の進捗整理について、当時がない考え方が増えている。新しい理念の下で整備のあり方の検討が必要。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】 ●施策の方向性 (1)歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 ①「新・首里杜構想」の策定と着実な取組 前回、平成の首里城復元にあたり、首里城を中心とする首里杜地区のまちづくりの基本的な考えを示した首里杜構想について、首里城の復元にとどまらない今般の首里城復興の理念を踏まえ、首里杜地区の新たなまちづくりの理念・方針及び目標期間を示し「新・首里杜構想」を策定する。 また、構想に基づき、新・首里杜構想の実現に必要な施策体系を明らかにする整備基本計画を策定する。整備基本計画は、「歴史のまちづくり(歴史を体現できる風格ある都市空間の創出)」「歴史文化資源の整備(首里城公園及び周辺地域の段階的整備)」「交通環境の整備」を柱として設定し、那覇市等との役割分担を踏まえ、具体的な事業手法の検討を行う。	土木建築部
3	上原委員	◆遺構の復元などの際には、世界文化遺産登録の意義も踏まえ、遺跡の真实性を重視した。この考えを踏まえた整備が必要。遺構以外のものも復元したものとの共存が必要。 ◆開発に伴い今後も遺跡の発見が想定されるが、それらを共存させながら活用することが課題。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策4 文化財の保全、復元、収集】 ●施策の方向性(1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知 ② 周辺文化財の情報発信 首里城及び周辺の文化財について、これまでの発掘調査の成果を公開するとともに、現地説明会や出土品の企画展示展、講演会を開催する。また、公開にあたっては多言語化を含めAR・VR等先端デジタル技術を活用し分かりやすさに工夫を凝らすとともに、世界に向けて情報発信等に取り組む。	教育庁

委員意見とその対応(第2回「新・首里杜構想」検討部会 R2.10.28)

4	田名委員	<p>◆中城御殿の整備も具体的に決める必要がある。城郭内整備に関わる収蔵庫の問題にも、県はしっかりと意思を表明すべき。</p> <p>◆御茶屋御殿、円覚寺をどう位置づけ、どう整備していくをするか明確にすべきである。</p> <p>◆首里城一点集中型ではなく、魅力資源を面として捉えた整備をし、回遊させる形が望ましい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策3 首里城のさらなる魅力の向上】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(1) 国営・県営区域の一体的利用</p> <p>① 首里城公園全体の魅力向上</p> <p>正殿等の復元整備にあわせて、県、国、指定管理者の連携のもと、首里城公園全体の一体的な利用に向けた検討を行い、施設整備や利用動線、展示や案内機能の上など首里城の魅力を体感できるように取り組む。</p> <p>② 中城御殿の整備と展示・収蔵機能の拡充</p> <p>首里城に関連する文化財等を展示・収蔵する機能も含め、県営公園区域にある中城御殿の復元を検討・整備することで、歴史的空間を体験できる場を創出する。</p> <p>③ 県営公園区域内の文化遺産等の整備</p> <p>松崎馬場、円覚寺跡や龍潭周辺等を計画的に整備し、国営公園と一体となった首里城公園の魅力向上を図り、県民をはじめ観光客等の満足度や回遊性を高め、ひいては周辺地域の周遊につなげていく。</p> <p>【基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備</p> <p>① 中城御殿や円覚寺などの歴史文化遺産の整備</p> <p>首里城公園において琉球・沖縄の豊かな歴史文化を多面的に伝えるために、県営公園区域にある中城御殿、円覚寺跡や松崎馬場等の重要な歴史文化遺産を計画的に整備し、国営公園と一体となった歴史的空間を体験できる場を創出する。</p>	土木建築部
---	------	--	--	-------

委員意見とその対応(第2回「新・首里杜構想」検討部会 R2.10.28)

5	神谷委員	<p>◆新・首里杜構想の方針案に「総合的な交通対策」とあるが、まずは定量的なデータに基づく議論を行い、その議論を踏まえ、目標を設定すべき。</p> <p>◆ハードだけではなくマネジメントも重要。</p>	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(3) 交通環境の整備</p> <p>① 安全で快適な歩行空間の整備等</p> <p>首里城に來園する観光客や地域住民の安全で快適な歩行空間の確保を図るため、無電柱化の推進、龍潭線の整備、歩行者中心の道路空間の創出、スージグワの整備、域内公共交通網の充実などについて、県、那覇市、住民、交通事業者等の連携体制を構築して取り組む。</p> <p>② 交通課題への対応</p> <p>首里地域における通過交通、観光交通、地域住民の交通による局所的に起こる渋滞等について、県、那覇市、地域住民、観光・交通事業者等が連携し、交通に関する定量的なデータの収集・分析、めざすべき交通環境の水準を定め、交通課題の解決に向け取り組んでいく。</p> <p>なお、中期的な対策として、交通事業者との連携によるピーク分散や首里杜館駐車場の運用改善、大型観光バス等の駐機場の確保、コミュニティバス等の導入、パークアンドライドの整備等に取り組む。さらに、通過交通を抑制するハシゴ道路のネットワークを形成する幹線道路である那覇インターアクセス道路の早期事業化等について検討する。</p>	土木建築部
---	------	---	--	-------

委員意見とその対応(第2回「新・首里杜構想」検討部会 R2.10.28)

6	越智委員	◆連携体制は計画期間だけで終わるものではなく、今後も続き、自走するものであるべき。計画期間においては、そのような体制を構築することが重要であり、教育機関も含めた連携体制が必要。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】 ●施策の方向性 (1)歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 ② 推進体制の構築・充実・強化	土木建築部
7	池田座長	◆連携体制は、有識者が突出する形ではない方が良い。NPOや専門家集団も含めた「団体等」を追加すべき。	歴史を体現できる風格ある都市空間の創出に向けては、長期かつ多岐にわたる課題を有することから、県、国、那覇市、有識者、大学等高等教育機関、関係団体や事業者、住民など多様な主体が必要に応じて参画できる体制を県等・構築し、情報の共有や課題の解決に継続して取り組むことで計画的な推進につなげていく。	
8	神谷委員	◆大学、住民、事業者も含めて継続的に議論できる場が必要。	【復興基本計画の着実な推進】 ●施策の方向性 (1)国、那覇市等関係機関との連携等 ① 役割分担の明確化と連携体制の構築 首里城復興基本計画を着実に推進して行くためには、国、県、那覇市、一般財団法人沖縄美ら島財団など関係機関の役割を明確にした上で、各主体が相互に連携・補完しながら効率的・効果的に取組を進めていくための連携体制の構築を図る。	
9	いのうえ委員	◆首里杜地区の住民が、50年後の首里のまちを見据えた「首里まちづくり憲章(仮)」を提起する予定。まちづくりとともに観光、交通などの課題解決に取り組み、成功すれば全島のモデルにもなると期待している。50年後の首里のあるべき姿の実現に向けて、住民も一緒に動いていきたい。	【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】 ●施策の方向性 (1)歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 ① 「新・首里杜構想」の策定と着実な取組 前回、平成の首里城復元にあたり、首里城を中心とする首里杜地区のまちづくりの基本的な考えを示した首里杜構想について、首里城の復元にとどまらない今般の首里城復興の理念を踏まえ、首里杜地区の新たなまちづくりの理念・方針及び目標期間を示し「新・首里杜構想」を策定する。	